



未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 4月号

ご進級

おめでとうございます

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和8年4月6日発行



春の暖かな日差しの中、小学校に子どもたちの明るい笑顔と元気な声が戻ってきました。児童の皆さんの進級を、心よりお喜び申し上げます。

本年度も引き続き校長を務めさせていただきます、日高大司郎です。教頭は、川崎達雄が務めます。昨年度同様、どうぞよろしくお願いいたします。本校のミッションは、「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」を育成することです。子どもたちとはもちろんのこと、保護者の皆さんや地域の方々としっかりつながりながら、職員一同、達成に向けて努力して参ります。

さて、本校のミッション「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」を端的に言えば、「自律する子」だと考えています。「自律」とは、言われたことをその通りにできることでなく、「自分で考え、判断して行動できる」ことです。良いこと・悪いこと・すべきことなど、自分で判断して、選択して行動できなければなりません。

学校では、「子ども主体の学習」を創ること、生活の中で努めて「自分で考え、判断して行動する」機会を設けることを意識したいと考えています。子どもたちに「どう考えているの」「どうしたい」と問うことを大切にしていきます。ご家庭ではどうでしょう。「〇〇しなさい」「△△してはいけません。」等、指示が多くありませんか。集団で生活する学校もそうなりがちなのです。しかし、子どもに考えさせることを大切にしないと、指示待ち、自分で決められない、自分のことを心配できない、他人のせいにしがちな子どもに育つ心配があります。

本校に残されている、昭和2年に書かれた学校だよりには、当時の佐藤萬吉校長先生のご家庭への思いが記されていました。

「最初に述べましたように、どうしても子供の教育は、お家と学校の一致により実が結ばれると思ひます。学校の教育にお考えがありましたら、学校に遠慮なしにお聞かせください。よろんでお聞きいたします。」

僕も、全く同じ思いです。昭和2年の校長と令和8年の校長が、共に同じ思いをもっています。これは、子どもを育てるとき、本当に大切なことなのだと言えないでしょうか。学校は、「子どもの幸せ」のために活動しています。保護者の皆さんも「子どもの幸せ」を願っているはずで、同じ願いに向かって、「共育（ともぞだて）」をしなければなりません。互いに相手のせいにしたくなることもあるでしょう。時には、意見が合わないこともあると思います。本校の職員が至らないこともあるかもしれない。しかし、もしそういうことが起こったとしても、同じ目的のために、同じ方向を探って、協働して育てていく必要があるのです。いつも子どもが僕たちの真ん中です。その真ん中の子どもたちのために（ご自分のお子さんのことだけでなく）、知恵を絞って一緒に「共育」していきたいのです。

子どもを育てる責任は、実は親だけが負うものではありません。すべての大人に責任があります。関わりの濃淡はもちろんありますが、それぞれに子どもに関わる事を大切にしてくださいと願っています。さあ、一緒に育てていきましょう。